

第一、二号研修実地研修評価票：胃ろう又は腸ろうによる経管栄養

評価基準

「ア」…評価項目について手順通りに実施できている。
 「イ」…評価項目について手順を抜かしたり、間違えたりした。
 「ウ」…見過ごせないレベルであり、その場で指導した。
 「エ」…1人での実施を任せられるレベルではない。

研修受講者氏名	
本票ページ数	/

実施回数		()回目				
実施月日		/	/	/	/	/
実施時間						
指導看護師等確認印		㊟	㊟	㊟	㊟	㊟
実施手順	評価項目	評価				
STEP4 : 準備	1 医師の指示等の確認を行う					
	2 手洗いを行う					
	3 必要な物品を準備する					
	4 指示された栄養剤（流動食）の種類・量・時間を確認する					
	5 経管栄養の注入準備を行う					
	6 準備した栄養剤（流動食）を実地研修協力者（演習の場合は演習シミュレーター）のもとに運ぶ					
STEP5 : 実施	7 実地研修協力者に本人確認を行い、経管栄養の実施について説明する					
	8 注入する栄養剤（流動食）が実地研修協力者本人のものであるかを確認し、適切な体位をとり、環境を整備する					
	9 経管栄養チューブに不具合がないか確認し、確実に接続する					
	10 注入を開始し、注入直後の様子を観察する					
	11 注入中の表情や状態を定期的に観察する					
	12 注入中の実地研修協力者の体位を観察する					
	13 注入物の滴下の状態を観察する					
	14 挿入部からの栄養剤（流動食）のものを確認する。					
	15 注入中に実地研修協力者の状態を観察する					
	16 注入終了後は白湯を注入し、状態を観察する					
	17 クレンメを閉め、経管栄養チューブの接続を外し、半座位の状態を保つ					
STEP6 : 報告	18 注入後、実地研修協力者の状態を観察し、報告する					
	19 体位交換が必要な実地研修協力者に対しては、異常が無ければ体位変換を再開する					
	20 ヒヤリハット・アクシデントの報告をする（該当する場合のみ）					
STEP7 : 片付け	21 環境を汚染させないように使用物品を速やかに後片付けする					
STEP8 : 記録	22 実施記録を記載する					
アの個数 計						

※全ての評価項目が「ア」となった場合に合格とする

* 自由記載欄

()回目	
()回目	